

## 梵鐘 1口(真宗大谷派難波別院)

### 梵鐘

ぼんしょう

### 指定有形文化財

美術工芸品[工芸]

### 所有者

宗教法人 真宗大谷派難波別院(しんしゅうおおたにはなんばべついん)

### 所在地

大阪府中央区久太郎町

### 紹介



総高 192.2cm、最大径 109.3cm

真宗大谷派の難波別院は「南御堂」の通称で知られる。天正 19 年(1591)に天満本願寺が京都に移転した後、文禄元年(1592)には 11 世門主顕如が没し、教如が 12 世門主となった。しかし秀吉の命により、翌年准如が門主を継職したため、教如は門主職を退いた。教如は、秀吉の没した慶長 3 年(1598)8 月に難波別院の寺地を得て堂宇(どうう)を建立するが、東本願寺の「寺院明細帳」によれば、これに先立ち渡辺の地の道修町 1 丁目に大谷本願寺を建立した。一説には文禄 4 年(1595)のことという。

この梵鐘は銘記から、文禄 5 年(1596)6 月に大谷本願寺の梵鐘として我孫子鋳物師である藤原家次が鋳造したもので、難波別院建立に先立つ渡辺の大谷本願寺の梵鐘と考えられる。